

# 環境・安全報告書 2023



旭有機材株式会社

当社の 2022 年度 事業活動における環境・安全に対する取り組みと成果をご報告いたします。

## CONTENTS

1. 環境・安全に対する基本姿勢
2. 環境保全への取り組み
3. 労働安全衛生および社員の健康増進への取り組み
4. 保安防災への取り組み
5. 製品安全への取り組み
6. 地域・社会との協調と共生

### 1. 環境・安全に対する基本姿勢

#### 1) 環境・安全に関する経営方針

当社では、環境・安全に関する経営方針を定めており、その方針の下、環境・安全に関する構成要素ごとに目標を定め、達成に向けて社員一丸となり取り組んでいます。

#### 理 念

当社は、環境保全・労働安全衛生・保安防災および製品安全を経営の最重要課題のひとつとして捉え、常に人や環境に優しい製品を開発、生産ならびに提供することを使命と認識し、事業活動を通して地球環境の保全と安全・衛生の確保に努めます。

#### 方 針

環境保全と安全確保は事業活動の基本である。

##### ●環境保全活動の推進

製品に関わるすべての事業活動を通して環境保全に貢献します。

##### ●安全衛生活動の推進

安全教育や設備安全化および安全衛生管理を通して、労働災害の防止を図ります。

##### ●健康の保持と増進

快適な職場環境の実現に努め、健康の保持と増進を図ります。

##### ●保安防災活動の推進

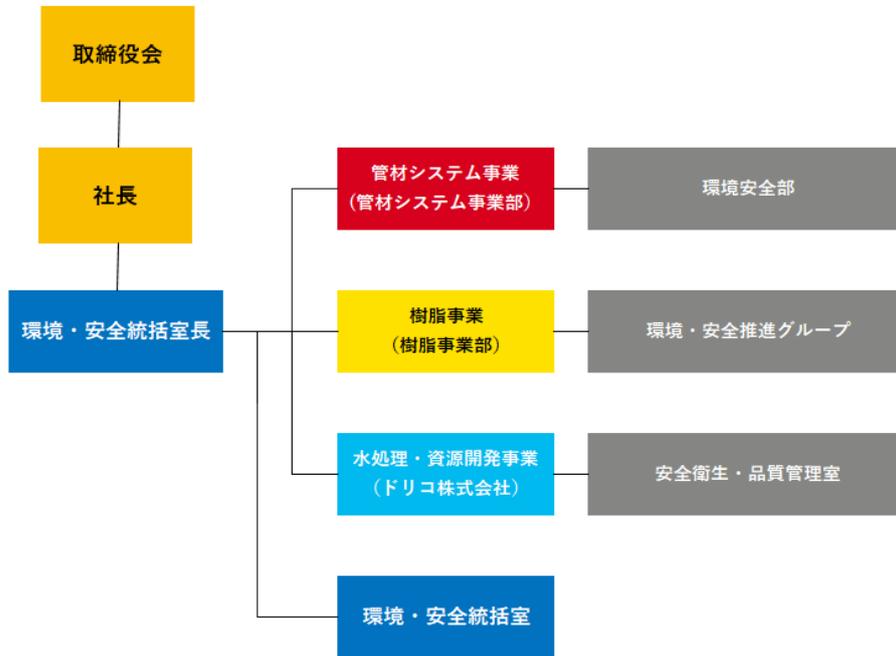
安定操業の維持と保安防災の向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保します。

##### ●製品安全の確保

製品の開発から廃棄に至るすべての段階において、技術向上と製品管理を徹底し、製品の安全性を確保します。

## 2) 環境・安全に関する社内推進体制

当社グループでは環境・安全統括室長の下、環境・安全活動を統括しています。



※) 組織名称は 2023 年 9 月現在

## 3) 環境・安全に関する重点課題

当社グループでは「環境・安全に関する経営方針」の下、以下の重点課題を掲げておりさらに重点課題に基づいたそれぞれの環境・安全に関する目標を設定し取り組んでいます。

項目	重点課題
環境保全	① ゼロエミッションに向けた取り組み ② 地球温暖化防止対策活動（エネルギー原単位とエネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量の削減） ③ 環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減 ④ 地域貢献活動の推進
化学物質	① 生産活動における有害化学物質の適正な管理 ② 化学物質による環境負荷の低減 ③ 製品等に含有する有害化学物質の削減または全廃
安全衛生・健康	① 5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進 ② リスクアセスメントによる設備・機械の本質安全化の追求 ③ 管理監督者の率先垂範による自主的な安全活動の実践 ④ 日常的な安全活動「教育、HHK（ヒヤリハット気がり）、KYT（危険予知トレーニング）」、健康保持増進等の推進
保安防災	① 安定操業の維持のための保安防災管理のレベルの向上 ② 感染症対策（コロナへの対応） ③ 緊急時のための効果的な実地訓練の実施

## 2. 環境保全への取り組み

当社はISO14001 環境マネジメントシステムをベースに環境保全に取り組んでいます。

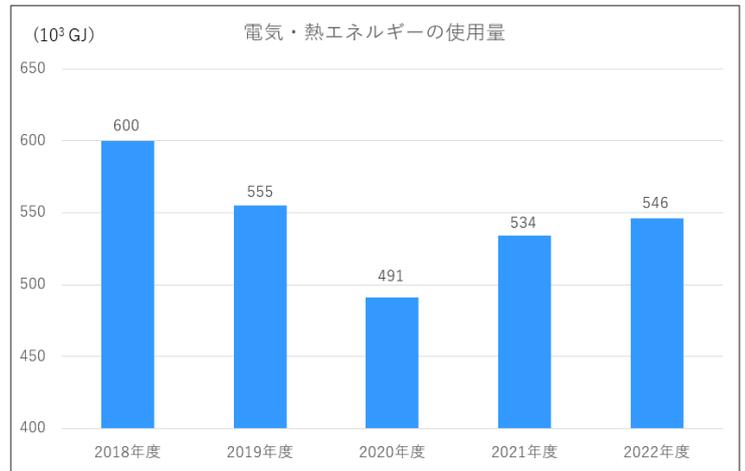
その結果、これまでは各種エネルギー使用量の削減、それらの消費原単位の改善、廃棄物の削減等、成果を上げてきましたが2022年度は2021年度と比較し、管材部門の生産量が増加、樹脂部門生産量は減少の影響がトレンドの変化として表れています。

### 1) エネルギー使用量

#### ・電気・熱エネルギー使用量

省エネ法に基づいて算定した、当社の各事業場で使用する電気・熱エネルギーは、546千GJと、昨年度に比べ約12千GJ(2.2%)増加しました。

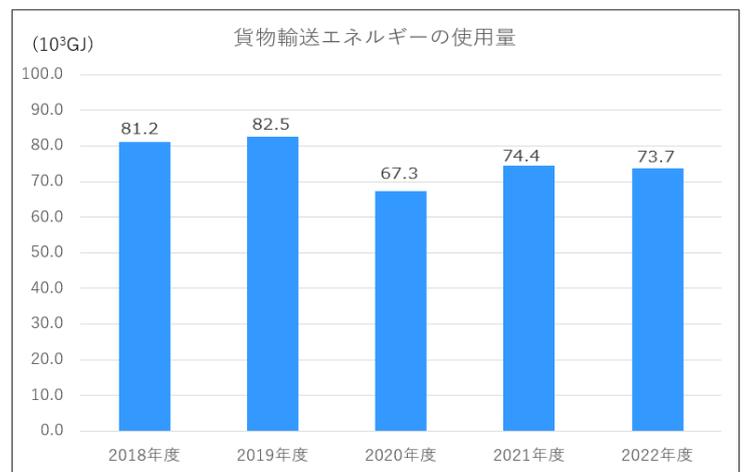
※) エネルギー使用量は、換算係数によりGJへ換算。



#### ・貨物輸送エネルギー使用量

省エネ法に基づいて算定した、当社の各事業場で使用する貨物・輸送エネルギーは、約73.7千GJと、昨年に比べ約0.7千GJ(0.9%)減少しました。

※) エネルギー使用量は、換算係数によりGJへ換算。



### 2) 省エネルギーと地球温暖化防止

#### ・電気・熱エネルギー消費原単位の削減

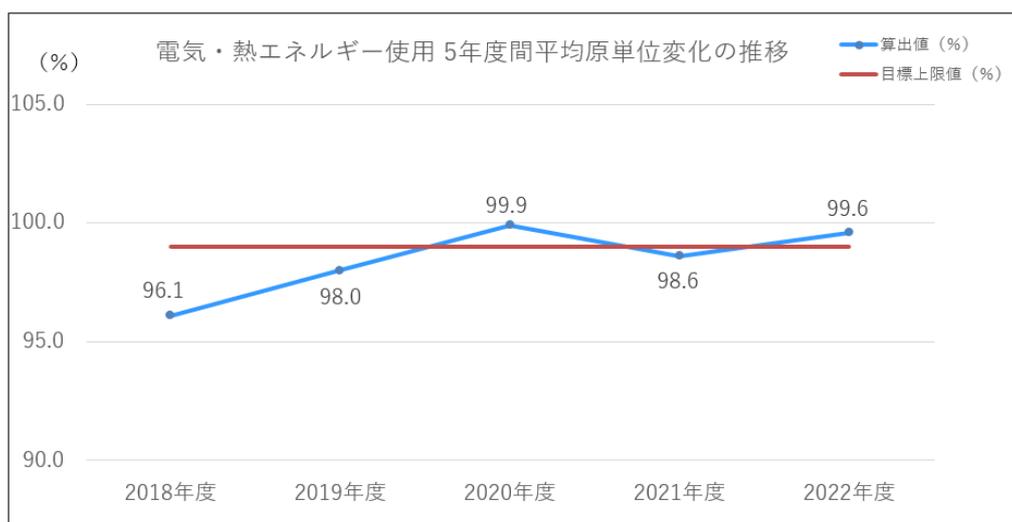
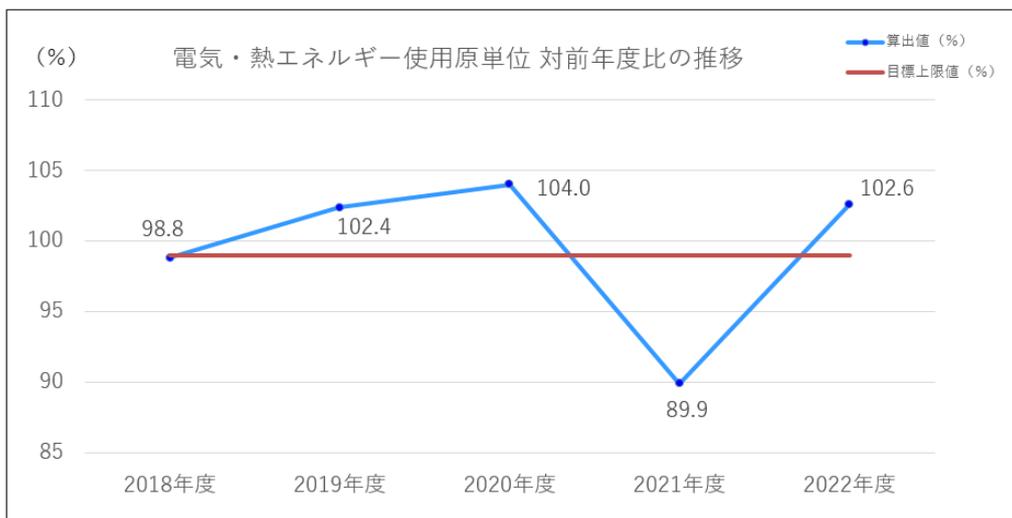
当社は「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーの転換等に関する法律」(以下、省エネ法)における「特定事業者」に指定されており、九州経済産業局に毎年、電気・熱エネルギーの使用に係る中長期計画書と定期報告書を提出しています。

特定事業者は電気・熱エネルギー消費原単位の対前年度比1%以上、及び中長期的にみた年平均1%以上低減への努力が求められています。

2022年度の原単位は、対前年度比で2.6%増加し、また5年度間平均原単位変化についても、2021年度に比べ0.4%の低減だったため目標値の1%以上削減は達成できませんでした。これまで当社は計画的に省エネ関連投資を実施してきており、2022年度においても射出成形機などの省エネ設備の導入を中心にエネルギー効率の向上を

図りましたが、管材部門の生産量が増加しエネルギー使用量が増えたことで、原単位は対前年度比、及び5年度間平均原単位変化の両方で目標を達成できませんでした。

2023年度は、さらに省エネ法における特定事業者に課せられた努力義務を果たせるよう電気・熱エネルギーの消費効率の改善に努めます。

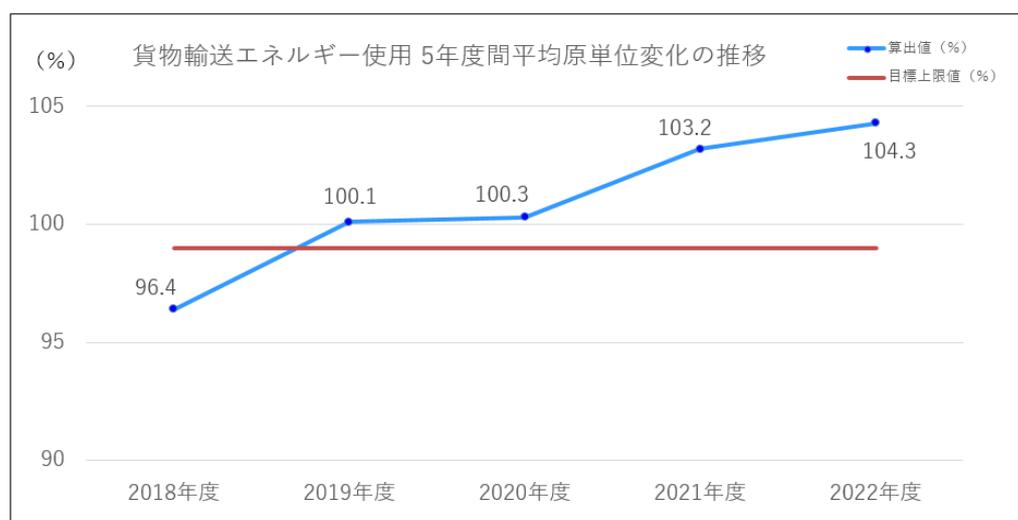
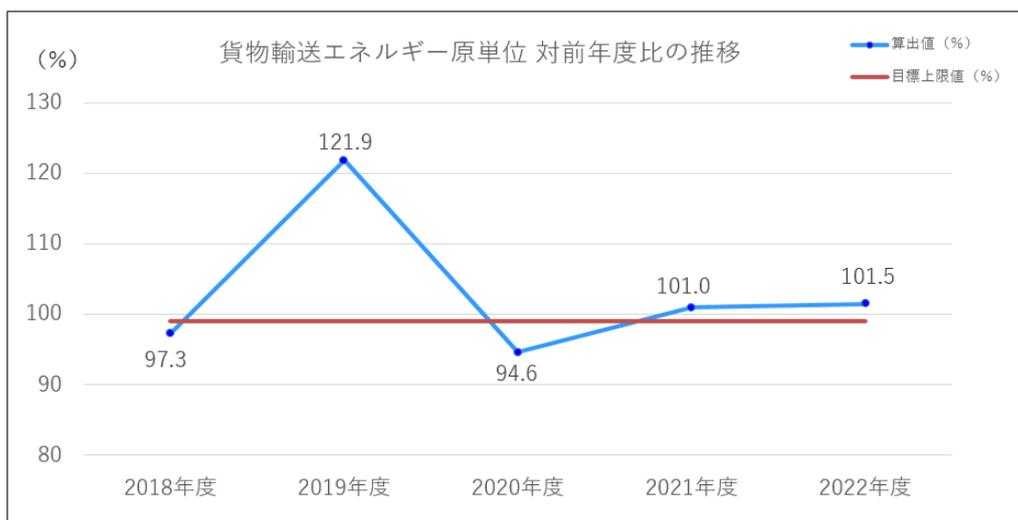


#### ・貨物輸送エネルギー消費原単位の削減

当社は省エネ法における「特定荷主」に指定されており、九州経済産業局に毎年貨物輸送エネルギーの使用に係る中長期計画書と定期報告書を提出しています。

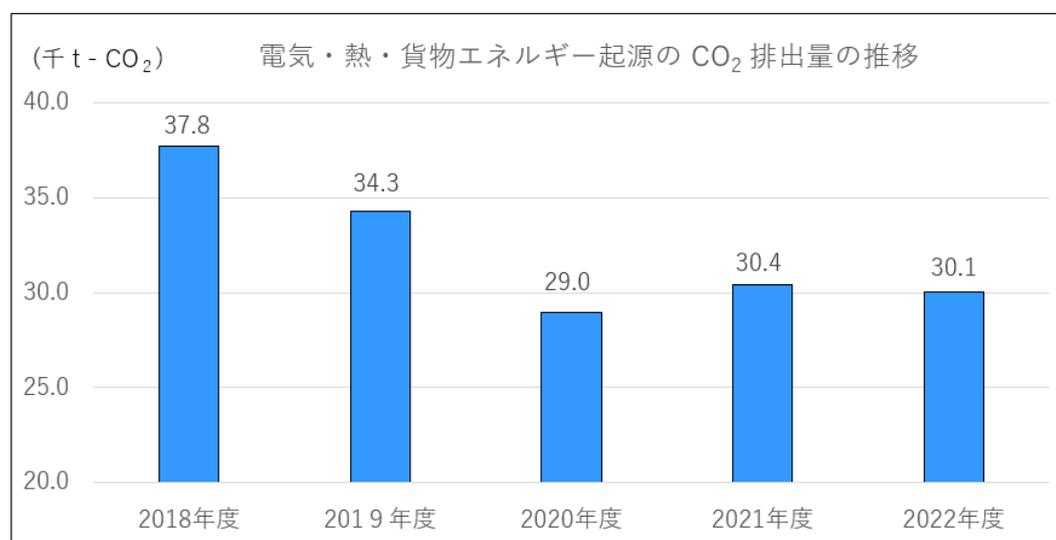
特定荷主は、貨物輸送エネルギー消費原単位の対前年度比1%以上、及び中長期的にみた年平均1%以上低減への努力が求められています。

2022年度の原単位は対前年度比で1.5%増加し、5年度間平均原単位変化についても4.3%増加となり1%以下削減の目標を達成できませんでした。この理由は主に管材部門の生産量増加に伴い全社としての輸送回数が増えているためと考えられます。これまでも積載率の向上、配送車両の大型化、JR輸送への転換を図ってきましたが、2023年度は、省エネ法における特定荷主に課せられた努力義務を果たせるようさらに物流効率の改善に努めます。



### ・電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量の削減

省エネ法に基づく 2022 年度の当社の電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO<sub>2</sub> の排出量は、30.1 千 t-CO<sub>2</sub> となり、2021 年度と比べ 1.0% 減少しました。これまで取り組んできた設備に使用する燃料の転換、高効率な設備への変更、CO<sub>2</sub> 排出係数の少ない電力への変更の取り組み、及び物流の効率化等、積極的な省エネ活動の実施が寄与したことで CO<sub>2</sub> 排出量は抑えられました。



### ・フロン漏洩防止

当社は、フロン設備の点検・整備、廃棄時における回収の徹底など、フロン排出抑制法を順守し、制御盤クーラーをはじめ、各種設備のノンフロン化を促進することで、フロン類の漏洩防止に努めています。

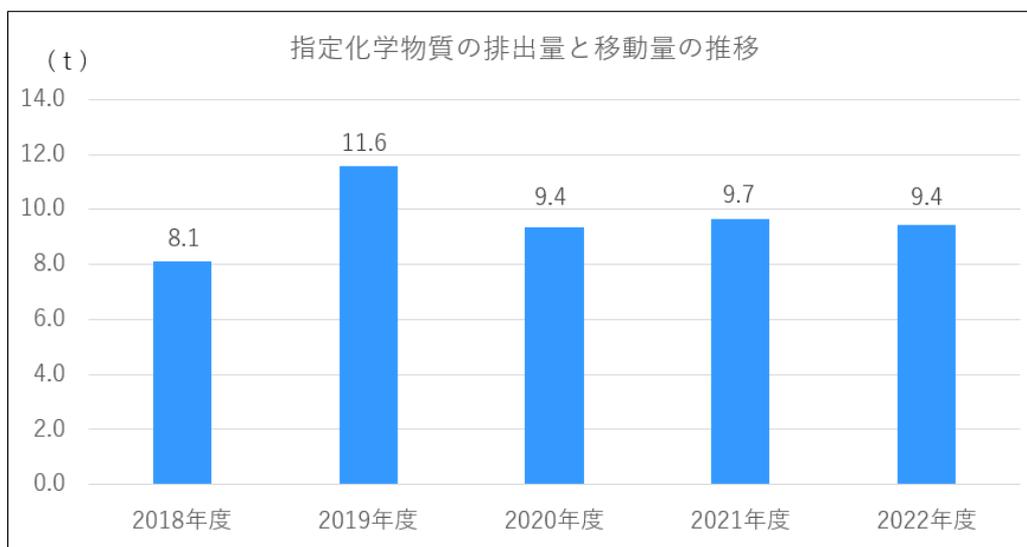
### 3) 環境保全

#### ・指定化学物質の排出量、移動量、及びその低減対策

化学物質管理促進法により指定されている化学物質の当社における排出量、及び移動量は、2021年度と比べ2022年度は3.1%減少しました。

当社では指定化学物質を含む原材料が入っている廃棄物量の削減を推進しており、今後も指定化学物質を適正に管理すると共に排出量・移動量の削減に努めます。

※) 化学物質管理促進法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律



P R T Rに基づき当社が管理している指定化学物質

工場	指定化学物質名称
延岡工場	有機スズ化合物、鉛及びその化合物、アンチモン及びその化合物、ヘキサメチレンテトラミン、フェノール、ジシクロペンタジエン、メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート
愛知工場	亜鉛の水溶性化合物、ビスフェノール A、エピクロロヒドリン、2,4 キシレノール、2,6 キシレノール、キシレン、クメン、グリオキサール、クレゾール、1,4 ジオキサン、N,N ジメチルホルムアミド、ヘキサメチレンテトラミン、テトラエチレンペンタミン、トリエチルアミン、1,2,4 トリメチルベンゼン、1,3,5 トリメチルベンゼン、ナフタレン、フェノール、ホルムアルデヒド、メチルナフタレン、メチレンビス(4,1-フェニレン)、リン酸トリ-ノルマルブチル、鉛化合物、2-エチルヘキサン酸、カプロラクタム、酢酸マンガ、ダイオキシン類、DMF
栃木工場	ヘキサメチレンテトラミン、有機スズ化合物、鉛及びその化合物、ダイオキシン類
広島工場	ヘキサメチレンテトラミン、ダイオキシン類

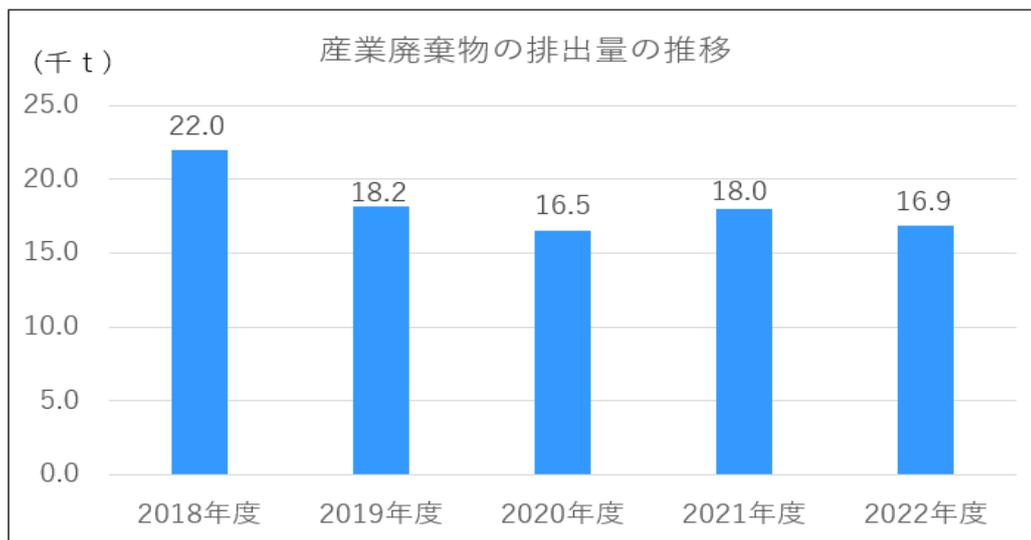
※) PRTRとは、化管法により指定されている化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

### ・産業廃棄物の総排出量

当社は、産業廃棄物を削減するための代表的な取り組みである4 R（抑制・削減・再利用・再資源）により、産業廃棄物の総排出量の削減、発生した産業廃棄物の有効利用、及び総排出量から単純（埋立）処分される産業廃棄物の削減（ゼロエミッション）を推進しています。

2022年度の総排出量の実績は16.9千tとなり、2021年度と比べ6.1%減少しました。

今後とも更なる廃棄物の排出量抑制に努めていきます。



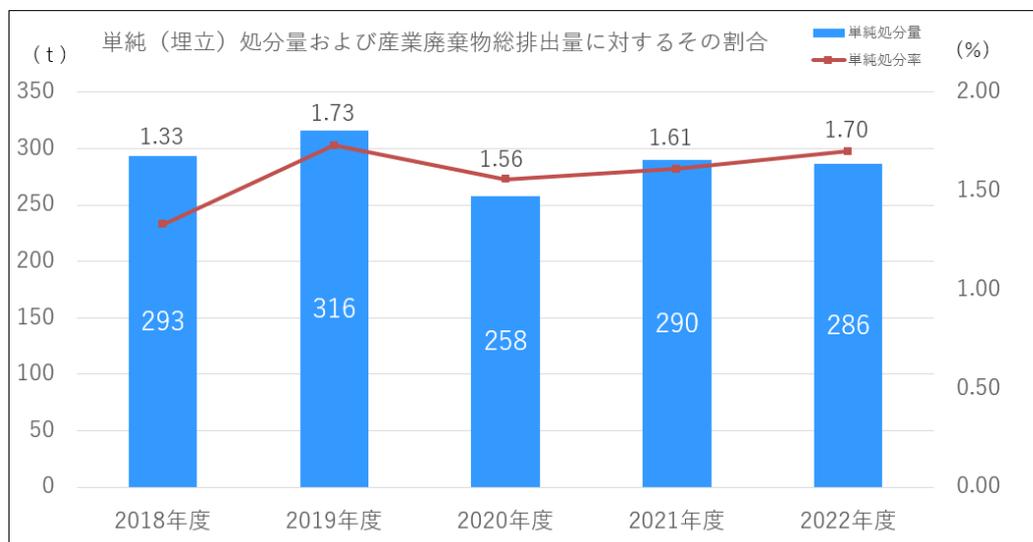
### ・産業廃棄物の総排出量に対する単純（埋立）処分量

2022年度の単純（埋立）処分量は、2021年度に比べ1.4%減少しましたが、単純処分率（産業廃棄物総排出量に対する単純処分量の割合）は5.6%増加しました。これは、前述のように産業廃棄物の総排出量が6.1%減少したことにより分母の影響が大きくなったためです。

単純（埋立）処分量の低減等に向けた当社の主な取り組みとしては、

- ・ 4 R（抑制・削減・再利用・再資源）の徹底
- ・ 産業廃棄物の分別による有価物化
- ・ 市場での有効利用に関するニーズ探索

を推進しています。さらに今後、環境負荷の大きい単純処分率を1%以下に抑えるよう努めます。



### 3. 労働安全衛生および社員の健康増進への取り組み

#### 1) 安全衛生活動の取り組み

##### ・安全衛生活動の方針

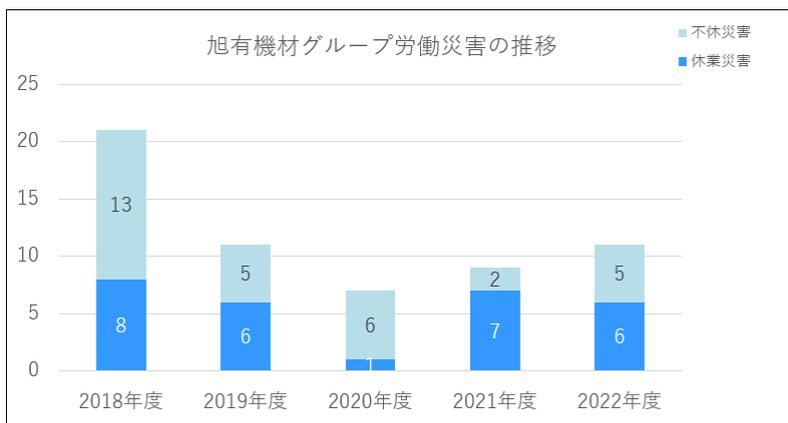
私たちが働く旭有機材グループは、安全を最優先に考え行動し心身ともに健康で安心して生き活きと働くことができる職場環境を築きます。

#### 2) 労働災害

##### ・当社グループの労働災害発生件数

2022年度の労働災害発生件数はグループ全体で11件と前年（9件）に比べ増加しましたが、休業災害は6件と前年（7件）に比べ減少しました。そのため休業災害度数率は、グループ全体で1.45と前年（1.81）に比べ減少しましたが、プラスチック製造業平均と比較すると大きな数字となっています。このような状況を改善することを含め当社グループでは安全を最優先と考え行動しています。重点活動としては、「心とからだの健康づくり」、「安全な人づくり」、「安全な場づくり」、「快適な職場環境づくり」という4つの視点から「社員と会社が一体となった心身両面の健康保持増進」、「安全のためのコミュニケーションの促進」、「5S・リスクアセスメント・設備改善による本質安全の実現」、「積極的にみんなで取り組む職場環境の改善」など、具体的な安全活動の実施による労働災害の防止に取り組んでいます。

また2022年度も昨年に引き続き、国内製造工場全てを対象とした安全パトロールを実施するなど、日常的な安全活動を通して安全な風土づくりに努めています。



		実績値				
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
休業災害発生件数	単独	2	1	1	3	1
	グループ会社	6	5	0	4	5
	連結合計	8	6	1	7	6
不休業災害件数	単独	4	1	3	0	4
	グループ会社	9	4	3	2	1
	連結合計	13	5	6	2	5
休業災害度数率	単独	1.25	0.61	0.60	1.75	0.54
	連結合計	2.22	1.52	0.26	1.81	1.45
	※(参考)プラスチック製造業平均	0.10	0.32	0.31	0.31	0.08
全災害度数率	単独	3.75	1.22	2.38	1.75	2.72
	連結合計	5.82	2.79	1.81	2.32	2.65

※) プラスチック製造業平均休業災害度数率は、各年の1月～12月分を調査されたものです。

出典\_労働災害動向調査(厚生労働省)

旭有機材データは年度データ(例2022年度\_2022年4月～2023年3月)です。

## ・全国安全徹底大会

2023年4月、「第18回全国安全徹底大会」を開催しました。一昨年までは年度末の3月に開催していましたが、昨年より1年間の活動の総括と新年度の方針を明確にするため、新年度4月の開催とし経営層と安全担当者が延岡に集まり議論を行いました。また、より多くの従業員に参加してもらうため、東京、延岡、愛知、栃木、広島等、各拠点をWEB会議システムで接続しました。

本年の大会では、安全衛生活動を推進していくにあたり「安全」と「衛生」を両輪と捉える中、特に「衛生」に着目し、心とからだの健康確保、及び快適な職場作りにより事故災害が抑制されるとの考え方を深掘りし経営層を含め議論しました。また特別講演として健康指導講師のみのわあい様に来延していただき、「健康第一！安全第一！職場の安全は一人ひとりの健康で守る」というテーマで講演していただきました。



WEB会議システム併用による第18回全国安全徹底大会風景



みのわあい様の講演風景

またドリコ株式会社では、2022年7月、「ドリコ安全と健康を守る会 定時総会」「ドリコ株式会社安全大会」を開催しました。当日はコロナの影響もあり、WEB会議システムによる安全講話、安全表彰、及び安全標語の投票結果などが発表され安全宣言（安全の誓い）が行われました。



ドリコ株式会社安全大会風景



採択された安全標語

### ・ 経営者による環境・安全ラウンド

当社の国内すべての製造工場を対象とした社長安全ラウンドを、栃木工場 2022年6月30日、愛知工場 同7月4日、広島工場 同7月6日、延岡工場 同7月19日に実施しました。

2022年度は、「安全への感性を向上させる」をテーマとして、各工場構内での実践状況や、最近の事故災害に関する対策・横展開状況などの報告を行いました。さらに、それらの具体的な内容についての詳細な議論を通じ安全意識の向上が図れた有意義なラウンドでした。



環境・安全ラウンド風景 (栃木)



環境・安全ラウンド風景 (愛知)



環境・安全ラウンド風景（広島）



環境・安全ラウンド風景（延岡）

### 3) 社員の健康促進

#### ・健康ポイントプログラムの導入

従業員の健康を経営課題の一つと捉え、「健康経営」と「人的資本への投資」の目的で、GUPPY社の健康ポイントプログラムを2020年9月に導入し、継続中です。健康ポイントプログラムは、ヨガ、ストレッチ、筋トレなどのエクササイズ、歩数、体重、睡眠時間、食事、飲酒量など日々の活動を記録することで見える化し気づきを与えるシステムです。

なお、当社では7000歩 / (人・月) を目標とし、毎月、個人別・地区別・所属部署別歩数ランキングを社内掲示版で公開することで運動意識を高めています。さらには本年はGUPPY社主催の東海道五十次ウォークラリーに旭有機材として参加しました。

このラリーは会社毎の団体戦として会社間で1カ月間歩数を競う競技で、一定の歩数を経過するとアプリ上で東海道の宿場をめぐる競技です。

このようにいろいろな工夫をすることにより、確実に健康のためにウォーキングをする風土が醸成されてきています。その結果として、健康づくりを日常の話題としたコミュニケーションも活性化され一体感も生まれつつあります。さらに今後も健康な職場づくりを推進していきます。



健康ポイントアプリ

第1回 **スマホde** 参加無料

# 東海道五十三次ウォークラリー

**団体戦 2022 AUTUMN**

開催期間: 10/1(土)~10/31(月)23:59

東海道五十三次ウォークラリー

## ・メンタルヘルス講演会

当社は社員のメンタルヘルスケアに力を入れており、2012年度から毎年、当社産業医でもある赤坂診療所所長の 渡辺登 先生をお招きし、メンタルヘルス講演会を行っています。2022年度も WEB にて9月に実施しました。特に重要な「7つの健康習慣」、「自分に意識的にねぎらいの言葉を掛けるコーピング」や、「マインドfulnessなどのストレスマネジメント」、「発達障害の人の困りごと」などについて、健康生活につながる重要なお話をいただきました。また、当社の社報である+POWER(プラスパワー)に、毎月「メンタルヘルスアドバイス」と題するコラムを執筆していただいております。2012年以来、当社社員のメンタルヘルスケアにご尽力いただいております。

### 旭有機材株式会社 メンタルヘルス講演会

## 職場のメンタルヘルス

赤坂診療所 所長  
精神保健指定医 医学博士 渡辺 登



赤坂診療所所長  
渡辺登 先生

## 7つの生活習慣を守って健康に

肥満症や高血圧などの生活習慣病は、環境や生まれつきの遺伝的な要素にも関係していますが、食習慣や運動習慣などの生活習慣にも大きく関わっていることが知られています。「7つの健康習慣」は米国のブレスロー教授が生活習慣と身体的健康度との関係を調査した結果から広く知られるようになりました。



メンタルヘルス講演会の WEB 画面

## ・健康測定

2022年12月、社員の健康に対する意識向上のため、公益財団 福岡労働衛生研究所様による健康測定を実施しました。測定項目は、握力、座位体前屈、全身反応時間、ロコモ、閉眼片足立ちの5つで、それぞれ全国平均と比較することで自分の立ち位置を確認し、今後の運動等に活用できるよう役立てています。



健康測定風景



健康測定結果の説明風景

## 4. 保安防災への取り組み

### 1) 保安防災に関する基本方針

当社グループは、安定操業の維持と保安防災管理のレベルの向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保するために保安防災活動を推進しています。

特に人命第一の思想の下、緊急時対応のための訓練を毎年全工場にて実施しています。

### 2) 取り組み事例

#### ・消防競錬会への参加

愛知工場では、2022年10月 丹羽広域事務組合消防本部予防課様による消防競錬会に参加し、社員の防災意識の向上に取り組みました。この競錬会は、火災発生通報、けが人の救出、消火器による初期消火、活動報告までの一連の動作の時間や正確性を競いながら防災意識を向上させる取り組みで、当社社員が消防長賞をいただきました。



競錬会風景（愛知）



消防長賞受賞（愛知）

また、延岡工場では、2022年12月に工場火災防止を目的として、避難訓練、消火訓練を実施しました。



避難訓練風景（延岡）



消火訓練風景（延岡）

### ・シェークアウト訓練

当社では地震などの自然災害に備え緊急地震速報装置を設置しており、緊急地震速報訓練と連携した「シェークアウト訓練」を定期的に行っています。これは地震が発生したときに安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を身につける訓練であり、いざという時に備えておくために必要不可欠なことです。

2022年度も例年通り消防庁などの行政機関の呼びかけに応じ愛知工場、栃木工場、広島工場にて11月に実施しました。



シェークアウト訓練風景

## 5. 製品安全への取り組み

### 1) 製品安全に関する基本方針

当社グループは、「信頼の品質」と「真摯な対応」を通じて満足していただける製品・サービスの提供に努めており、より優れた、より安全な製品・サービスの提供を通じて、人びとの幸福と社会の発展に寄与することを目指しています。

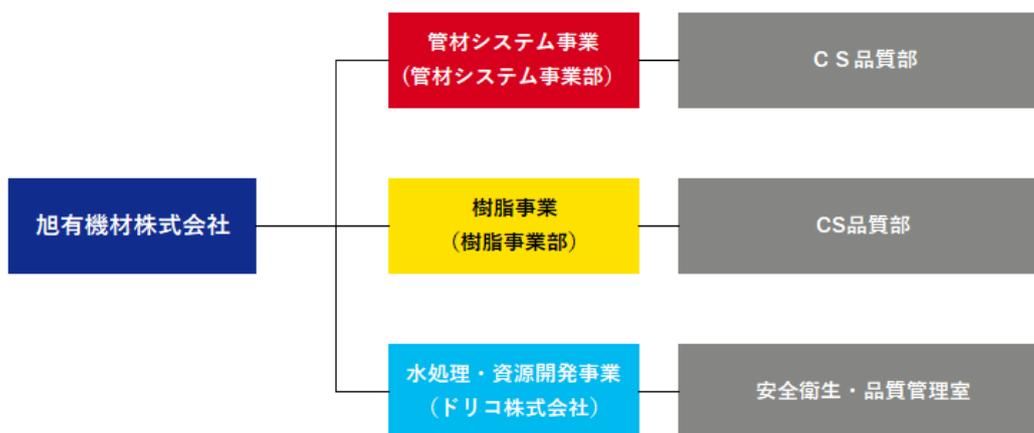
#### 製品安全に関する基本方針

顧客の信頼と満足が得られる、より優れた、より安全な製品の創出を通じて、人間の幸福と社会の発展に寄与する。

- 顧客の立場で製品を開発すること。
- 技術を錬磨し、品質管理を徹底して、ものづくりをすること。
- 製品を正しく安全に使っていただく営業を実践すること。
- 製品がその効用を終え、廃棄されるまでのすべての段階における環境と安全に与える影響を配慮すること。

## 2) 製品安全に関する社内推進体制

当社は事業部に品質保証部門を設置し、ISO9001 品質マネジメントシステムをベースに品質保証・製品安全体制を構築し、お客様のお役立ちを第一に考えるものづくりに取り組んでいます。



※) 組織名称は 2023 年 9 月現在

## 3) 製品安全に関する取り組み

### ・品質工学による取り組み

品質の大本（上流）である設計・開発に起因するトラブルを撲滅するために、2018 年 9 月より「品質工学」への取り組みをスタートし、社外専門家である株式会社ジェダイト 鶴田明三 先生をお招きし毎月「品質工学インハウスセミナー」を開催しています。2022 年度は第 4 期目となり、累計で 28 名が受講しました。

また、2021 年 4 月から樹脂事業部愛知工場でも受講を開始し、2022 年度は 2 期目として品質向上の取り組みを強化しています。



株式会社ジェダイト  
鶴田明三 先生（中央）



品質工学受講風景

## 6. 地域・社会との協調と共生

### 1) 地域・社会との協調と共生に関する基本方針

当社は、旭有機材行動規範の実践すべきことの中の「社会への貢献」の理念の下、積極的に地域との交流活動を行っていますが 2020 年度以降、新型コロナウイルスの影響で地域との関わりは自粛せざるを得ない状況が続いています。

## 2) 取り組み事例

### ・工場周辺の清掃活動

工場周辺地域の方たちが工場周辺にいらしても不快な思いをされないよう、工場周辺の清掃など美化活動を定期的に行っています。延岡工場では 2022 年 4 月、10 月 愛知工場では、2022 年 5 月に実施しました。



延岡工場の清掃活動風景



愛知工場の清掃活動風景

### ・献血活動

当社延岡工場では、国内で使用される血液製剤のすべてを献血により賄うという国の方針に沿って取り組んでいる、宮崎県赤十字センター様の献血推進活動に協力しています。2022 年度は、延岡工場構内で 4 月、10 月に献血を行い、計 100 名の目標に対して 129 名が受付し、117 名がそれぞれ 400ml の献血を実施しました。また、愛知工場では 2022 年 6 月に、目標 30 名に対し、16 名が受付し、13 名が 400ml の献血を行いました。



延岡工場での献血風景

## ・ソフトボール大会

当社愛知工場では、地域貢献の一環として扶桑町、江南市のソフトボールチームの交流を主とする「旭有機材杯ソフトボール大会」を実施しており 2022 年度は第 44 回大会となりました。参加は扶桑町 8 チーム、江南市 7 チームの計 15 チームが参加し行われた結果、江南市の「和田クラブ」様が優勝しました。



ソフトボール大会風景

## ・新「ゆうきの森・上三輪」第二期植樹活動

当社は宮崎県が取り組んでいる「企業の森づくり」に 2008 年より参画しており、第二期植樹活動として延岡市上三輪町（かみみわまち）での森林整備に取り組んでいます。

2022 年度も 4 月に第 3 回植樹活動を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止としました。

なお、これまでの「ゆうきの森・上三輪」植林による 2022 年度二酸化炭素吸収量は、宮崎県の認証によれば、7.25t-CO<sub>2</sub> / 年でした。

## ・藤前干潟の不法投棄ごみと漂着ごみの撤去

愛知工場では例年、愛知県産業廃棄物協会様が行政機関との連携で行う「藤前干潟不法投棄ごみ撤去作業」に参加してきましたが、2022 年度は新型コロナウイルスの影響で撤去活動が中止となりました。

## ・地域の夏祭りへの参画

当社の延岡工場、栃木工場では地域活性化活動の一環として毎年夏祭りに参加してきましたが、新型コロナウイルスの影響により、宮崎県延岡市の「2022 年 第 45 回 まつりのべおか」、栃木県大田原市の「2022 年 第 39 回 与一祭り」は中止となりました。

なお両祭りとも、2023 年度は再開されました。

発行日 2023年9月

旭有機材株式会社